

## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課 宮川 耕二 (課長補佐兼県道係長 吉村 文章)	内線	4362 (4376)
事業種目	道路	事業名	事業区間	総事業費	4.0 億円
		道路改良事業 (一)阿那賀三原線	三原郡三原町榎列小榎列 ～市十一ヶ所	内用地補償費	2.3 億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
三原郡三原町榎列小榎列 ～ 市十一ヶ所			H17	H17	H21
事業目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>本路線は三原町役場をはじめとする主要公共施設へのアクセス道路である。当区間の整備によって、すれ違い困難区間、歩道未整備区間を解消し、円滑で安全な車両の通行を確保する。</li> <li>三原町役場、公共施設へのアクセス向上により平成17年1月に発足する「南あわじ市」の充実したまちづくりを支援する。</li> <li>地域を代表する特産物であるレタス・タマネギの出入荷時のアクセスを向上させ、地域産業の活性化を図る。</li> </ul>			道路改良(バイパス) L=400m 現況幅員 : W=4.0(5.0)m 計画幅員 : W=5.5(9.25)m ; 2車線+片側歩道(2.0) 現況交通量 : 3,092 台/日 将来交通量 : 3,300台/日		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線は人家連担地で幅員が狭小であり、また線形も危険なクランク状になっているため車両の離合が困難である。このため、バイパス整備により円滑かつ安全な車両の通行の確保が必要である。</li> <li>本路線は災害時の緊急輸送道路に指定されている。救急医療、福祉、消防防災活動の迅速な対応を図るうえでも整備が必要である。</li> <li>歩道未整備区間を解消し、市小学校への安全な通学路を確保する必要がある。</li> </ul>				
暮らしと交流を支える道づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年1月に発足する「南あわじ市」の市民生活、農業振興の機能を受け持つこととなる三原町庁舎、周辺に集積する公共施設へのアクセスが向上し、南あわじ市全体の発展が図られる。</li> <li>淡路ブランドのタマネギ・レタスを出荷する「JAあわじ市支所野菜出荷場」へのアクセス道路であり、効率的な農作物の出入荷を通じて、地場産業の活性化が図られる。</li> </ul>				
地域ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活と密接な関係がある三原町役場、三原町公民館、三原町保健センター、神戸地方法務局三原出張所が隣接しており、本路線を利用するニーズは高い。</li> </ul>				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比 B/C=1.9</li> </ul>				
代替性	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通の隘路区間(クランク)を解消するバイパス整備が最適である。</li> </ul>				
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元住民の参画と協働によりルート決定しており、円滑な事業実施に向け、既に用地取得の面で地元の協力体制が整っている。</li> </ul>				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道部に透水性舗装を採用し、環境への影響を最小限に留める。</li> </ul>				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>未改良区間が多く残る本路線の中でも、当事業区間がもっとも幅員狭小で視距が悪く、事故危険性が高い。このため費用対効果の面でも、投資効果が高い。</li> <li>地域の交通安全及び公的施設へのアクセス性向上に資する本事業は、地元の理解と協力、計画への合意形成が図れているので、平成17年度より事業着手し、新市のまちづくりを支援する。</li> </ul>				